

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500810
法人名	はぴねす福祉会
事業所名	グループホームおてだま
所在地	愛媛県新居浜市若水町1丁目9-13
自己評価作成日	平成23年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の趣味活動(刺し子、布袋、ランチョンマット作成、短歌創作、絵画作成など)に積極的に取り組めるような環境を提供している。ほとんどの生活役割に利用者が主体となって取り組めている。外出支援もほとんど毎日行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根差した福祉施設を運営している法人が、いろいろなサービスを利用者が選択できるよう、複合施設の中で運営している事業所である。事業所の玄関から居室まで古民家を思わせる設えで馴染みやすい雰囲気である。また、屋上や広いベランダなどで気軽に外気浴ができ、他施設の利用者と気軽な付き合いができる。複合施設であるため、医療や介護のスタッフが多く在籍しているため利用者は安心して生活ができる。利用者が地域の一員として生活できるよう、近隣の社会資源を積極的に利用し、近所付き合いに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

事業所名	グループホームおてだま
(ユニット名)	紙ふうせん
記入者(管理者)	
氏名	田坂愛子
評価完了日	平成 23 年 9 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「地域の中に」を理念に掲げ、ことあるごとに(カンファレンス、GH内研修など)理念を意識した話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 地域密着型サービスに移行した際に見直しを行い「地域との繋がりを大切に」を理念として掲げている。複合施設内の事業所であるため、地域との距離ができてしまわないよう、理念を実践するために積極的に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、外部から入りにくいということがあるが、毎日近隣の店に買い物に行ったり、美容室を利用したり、地域の盆踊り、文化祭などに参加している。</p> <p>(外部評価) 事業所が複合施設の4階にあるため、近所の方が気軽に遊びに来れる環境ではない。また、近隣が商業地域のため民家が少なく、ふれあいが難しい地域であるが、職員は利用者と共にできる限り近隣のスーパーや喫茶店を利用し、催し物やイベントにも出かけ顔見知りを増やす努力をしている。</p>	今後も地域に出かけて顔なじみを作る努力を続け、利用者の生活が豊かになるよう取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症について自治会で話をしたり、キャラバンメイトに参加し地域にでかけている。新居浜認知症を考える会にも参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議の都度意見交換、話し合いを行ない、サービス向上に生かしている。	事業所のリビングで利用者も参加してもらいながら会議を行う等、利用者の生活状況が身近に感じられるような会議運営の工夫を期待したい。地域への働きかけは、今後も継続し、活発な意見交換の場として会議が活用されるよう期待したい。
			(外部評価) 商業地域のため地域住民が少ないこともあり、外部からの参加者があまりいないのが現状である。管理者も問題として考えており、機会があるごとに地域に出向き参加を募っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 疑問点、問題点などがあれば、市の担当者話し合い対応を協議している。	
			(外部評価) 母体法人が地域の多くの福祉施設を運営しているため、行政側からは事業所も地域の社会資源として位置付けられている。そのため、事業所だけでなく他のサービス機関も含め、市担当者との協働関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、電子ロックあり、施錠解除については検討を重ねている。	電子ロックの取り外しは、施設整備の面からの検討が必要であり難しい問題ではあるが、今後も取り外しの働きかけをしていきたいと管理者は前向きであり、その取り組みに期待したい。
			(外部評価) 身体拘束をしないケアは、母体法人の基本理念にもなっており、事業所内研修だけでなく、法人での研修も行われている。複合施設の設備上、玄関は電子ロックが設置されている。管理者は見守りを基本としたケアを目標にしているため、電子ロックの取り外しが検討課題となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、学習会をするなどして、虐待の防止に努めている。「言葉かけ」においても精神的虐待になっていないか注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学習する機会は設けたが具体的な事例はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行ない、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから意見や要望を考察し、家族にも自由に意見を求めている。それをカンファレンスなどに反映させている。 (外部評価) 管理者は、面会の少ない家族からの意見の聞き取りを特に意識して行っている。利用者の現状を伝える手紙や定期的な電話連絡、催し物の参加の呼びかけをする等、事業所全体で家族との良好な関係を構築するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ意見提言を聞いている。なるべく反映できるようにしているが、十分とは言えない。 (外部評価) 月2回のケア会議と月1回のユニット長会議で、職員の意見を集約している。また、管理者や各ユニット長も日々のケアに携わっているため、日常業務の中でも職員と話し合いが行われている。職員が意見や提案を出しやすいよう、管理者は良好な職場環境を構築するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めているように思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に外部の研修や内部研修を受けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に参加している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時には少しでも本人の不安を取り除くようにし、本人の状態把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時や面会時に、家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ともに生活をする人」として、得意な事を教えてもらったり、ともに楽しみ、支えあう関係づくりをこころがけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が疎遠な場合、できるだけかわりをお願いしたり、本人の情報を賓回に伝えたり、ともに支援していくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や商店を利用したり、家族や友人の訪問が出来やすいように配慮している。 (外部評価) 事業所の利用者の知人や友人が複合施設のデイサービスの利用者におり、訪ねてよく遊びに来てくれる等、複合施設ならではの交流が行われている。知人や友人が行き来しやすいよう職員は配慮し、関係継続のための支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係に常に注意を払い、「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所して以降も家族も相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを中心に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。 (外部評価) 利用者を見つめ直そうと、センター方式の様式を活用し、利用者全員の生活歴をまとめ直している。利用者の新たな一面を発見する等、利用者の理解を深めより一層、利用者本位のケアが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの聞き取り等から把握している。生活アセスメントシートに記入していただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) 介護計画は、月2回のケア会議で利用者それぞれの担当職員がモニタリングを元に評価し、全員で見直しを行っている。また、介護計画は、実践できる具体的な内容にまとめられており、利用者が無理なく楽しい生活ができるように立てられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の希望により、受診介助や買い物、お墓参りなど柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 図書館や美術館を利用したり、地域の文化祭などに参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行し ている。 (外部評価) 利用者それぞれのかかりつけ医への受診を基本として いるが、近くに総合病院があり、良好な協力関係を築 くことができている。緊急の場合を想定しての支援体 制を整え利用者が安心して生活できるよう取り組まれ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日の健康状態を把握し、異常があれば看護師に相談 している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者 や家族と早期退院にむけて調整している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 1名であるが「看取り」に取り組んだ。 (外部評価) 事業所では利用者の生活の質を重視しているため、重 介護の場合や医療的ケアが必要な場合等は、同法人の 施設に限らず、もっと設備やスタッフが揃っている場 所を勧めることを基本としている。しかし、家族や利 用者の強い希望がある時は、福祉職スタッフで可能範 囲での対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習や緊急時の対応を訓練している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力で避難訓練を行っている。 (外部評価) 複合施設で大勢の利用者が生活しているため、避難訓練は定期的にしっかりと行われている。緊急時に対する危機意識や利用者の命を預かっているという使命感を持ち、AEDを用いた救急法の講習会を行う等、災害等の対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会やケース会などで常に「言葉使い」に関しては、注意喚起している。プライバシーに関してもことあるごとに検討している。 (外部評価) 利用者への声かけは、親しみやすさの中にも敬う気持ちが感じられる。職員は特にトイレの誘導には気を付けており、誇りやプライバシーを損ねないよう十分な配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個人の趣味や好みなどを聞きながら、利用者の決定を尊重していくように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりの状況に合わせて柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の更衣時に好みの服を整えたり、外出時はおしゃれを楽しむよう支援している。行きつけの美容院などを利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みものを献立にいかし、買い物、調理、盛り付け、片付けなど利用者と一緒に行っている。同じ食卓に向かい合いながら、楽しく食事できる雰囲気を作っている。 (外部評価) 朝食と夕食は法人の厨房で作られているが、昼食は職員と利用者が協働しながら作っている。利用者ができることを把握し、慎重な見守りをしながら無理のないよう支援している。食事が楽しみの一つとなるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分摂取量などの記録をとりながら、体調を観察して、一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を記入しパターンを把握し、適切な誘導を行っている。	
			(外部評価) 水分量や運動量をチェックしたり、排泄状況を記録し声かけや誘導を行っている。毎朝のミーティングで管理者と看護師が話し合い、排泄のリズムが整うよう対策を検討している。早めの対応を心掛け、排泄がスムーズに行えるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、状態を把握しながら食事の内容を検討し、水分補給にも気をつけながら、身体を動かすような支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) なるべく一人ひとりの希望に沿うように入浴支援をしている。	
			(外部評価) 入浴介護が行いやすいように広めの洗い場が確保されており、ユニットによっては2人介護も可能な浴室がある。利用者が重介護になっても入浴を楽しめるよう設備が整えられており、母体法人のきめ細やかな配慮が感じられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動性をあげるようにし、穏やかな就寝にむけて支援している。表情や態度を見ながら休息を促がしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケースごとに整理して職員が分かりやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験などを生かしてもらえそうな行事、役割などを作り支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できるだけ外出要求に応えながら、希望する場所によっては家族の支援を呼びかけたりしているが、十分とはいえないかもしれない。	
			(外部評価) 電子ロックやエレベーター操作などがあり、利用者が気軽に外に出ることはできないが、広いベランダや屋上などで外気浴が楽しめる。複合施設の広い多目的ホールが使用できたり、車いす対応車両が活用できるため外出の支援がよく行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じてお金を所持し使っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れしつらえを工夫している。	
			(外部評価) 畳のスペースは、利用者の寛ぎの場であったり、洗濯物を畳む等の作業の場にもなっている。6人掛けの広いダイニングテーブルが2台置かれているが、テーブル間にゆとりがあり、車いすの利用者が移動しやすいよう配慮されている。窓からの景色も良く遠くまで見ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室や中庭を利用している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。	
			(外部評価) 部屋のデザインや大きさ、設備が違い、利用者の家具がそれぞれ配置されているため、個性豊かな部屋になっている。広いベランダに面している部屋では、庭付きのような感じがあり、和める空間となっている。事業所で用意しているベッド等も利用者の使い勝手を検討したうえで配置がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500810
法人名	はぴねす福祉会
事業所名	グループホームおてだま
所在地	愛媛県新居浜市若水町1丁目9-13
自己評価作成日	平成23年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街の中にあるので、地域のお店を利用できやすく、顔なじみになれるように毎日出かけている。ビルの4階にあるが、ベランダで野菜、花などを育て楽しんでいる。利用者一人ひとりにできる生活役割をみつけ、積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根差した福祉施設を運営している法人が、いろいろなサービスを利用者が選択できるよう、複合施設の中で運営している事業所である。事業所の玄関から居室まで古民家を思わせる設えで馴染みやすい雰囲気である。また、屋上や広いベランダなどで気軽に外気浴ができ、他施設の利用者と気軽な付き合いができる。複合施設であるため、医療や介護のスタッフが多く在籍しているため利用者は安心して生活ができる。利用者が地域の一員として生活できるよう、近隣の社会資源を積極的に利用し、近所付き合いに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームおてだま

(ユニット名) 風ぐるま

記入者(管理者)
氏名 田坂愛子

評価完了日 平成 23 年 9 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「地域の中に」を理念に掲げ、ことあるごとに(カンファレンス、GH内研修など)理念を意識した話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 地域密着型サービスに移行した際に見直しを行い「地域との繋がりを大切に」を理念として掲げている。複合施設内の事業所であるため、地域との距離ができてしまわないよう、理念を実践するために積極的に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、外部から入りにくいということがあるが、毎日近隣の店に買い物に行ったり、美容室を利用したり、地域の運動会、文化祭などに参加している。</p> <p>(外部評価) 事業所が複合施設の4階にあるため、近所の方が気軽に遊びに来れる環境ではない。また、近隣が商業地域のため民家が少なく、ふれあいが難しい地域であるが、職員は利用者と共にできる限り近隣のスーパーや喫茶店を利用し、催し物やイベントにも出かけ顔見知りを増やす努力をしている。</p>	今後も地域に出かけて顔なじみを作る努力を続け、利用者の生活が豊かになるよう取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症について自治会で話をしたり、キャラバンメイトに参加し地域にでかけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議の都度意見交換、話し合いを行ない、サービス向上に生かしている。	事業所のリビングで利用者も参加してもらいながら会議を行う等、利用者の生活状況が身近に感じられるような会議運営の工夫を期待したい。地域への働きかけは、今後も継続し、活発な意見交換の場として会議が活用されるよう期待したい。
			(外部評価) 商業地域のため地域住民が少ないこともあり、外部からの参加者があまりいないのが現状である。管理者も問題として考えており、機会があるごとに地域に出向き参加を募っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 疑問点、問題点などがあれば、市の担当者話し合い対応を協議している。	
			(外部評価) 母体法人が地域の多くの福祉施設を運営しているため、行政側からは事業所も地域の社会資源として位置付けられている。そのため、事業所だけでなく他のサービス機関も含め、市担当者との協働関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、電子ロックあり、施錠解除については検討を重ねている。	電子ロックの取り外しは、施設整備の面からの検討が必要であり難しい問題ではあるが、今後も取り外しの働きかけをしていきたいと管理者は前向きであり、その取り組みに期待したい。
			(外部評価) 身体拘束をしないケアは、母体法人の基本理念にもなっており、事業所内研修だけでなく、法人での研修も行われている。複合施設の設備上、玄関は電子ロックが設置されている。管理者は見守りを基本としたケアを目標にしているため、電子ロックの取り外しが検討課題となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、学習会をするなどして、虐待の防止に努めている。「言葉かけ」においても精神的虐待になっていないか注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 該当する利用者がいたが、まだ十分に活用できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行ない、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから意見や要望を考察し、家族にも自由に意見を求めている。それをカンファレンスなどに反映させている。	
			(外部評価) 管理者は、面会の少ない家族からの意見の聞き取りを特に意識して行っている。利用者の現状を伝える手紙や定期的な電話連絡、催し物の参加の呼びかけをする等、事業所全体で家族との良好な関係を構築するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ意見提言を聞いている。なるべく反映できるようにしているが、十分とは言えない。 (外部評価) 月2回のケア会議と月1回のユニット長会議で、職員の意見を集約している。また、管理者や各ユニット長も日々のケアに携わっているため、日常業務の中でも職員と話し合いが行われている。職員が意見や提案を出しやすいよう、管理者は良好な職場環境を構築するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めているように思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に外部の研修や内部研修を受けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に参加している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時には少しでも本人の不安を取り除くようにし、本人の状態把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時や面会時に、家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ともに生活をする人」として、得意な事を教えてもらったり、ともに楽しみ、支えあう関係づくりをこころがけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が疎遠な場合、できるだけかわりをお願いしたり、本人の情報を賓回に伝えたり、ともに支援していくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や商店を利用したり、友人を訪ねたり、訪問が出来るように支援している。 (外部評価) 事業所の利用者の知人や友人が複合施設のデイサービスの利用者におり、訪ねてよく遊びに来てくれる等、複合施設ならではの交流が行われている。知人や友人が行き来しやすいよう職員は配慮し、関係継続のための支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係に常に注意を払い、「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所して以降も家族も相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを中心に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。	
			(外部評価) 利用者を見つめ直そうと、センター方式の様式を活用し、利用者全員の生活歴をまとめ直している。利用者の新たな一面を発見する等、利用者の理解を深めより一層、利用者本位のケアが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの聞き取り等から把握している。生活アセスメントシートに記入していただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) 介護計画は、月2回のケア会議で利用者それぞれの担当職員がモニタリングを元に評価し、全員で見直しを行っている。また、介護計画は、実践できる具体的な内容にまとめられており、利用者が無理なく楽しい生活ができるように立てられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の希望により、受診介助や買い物、お墓参りなど柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 図書館や美術館を利用したり、地域の文化祭などに参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行し ている。</p> <p>(外部評価) 利用者それぞれのかかりつけ医への受診を基本として いるが、近くに総合病院があり、良好な協力関係を築 くことができている。緊急の場合を想定しての支援体 制を整え利用者が安心して生活できるよう取り組まれ ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 毎日の健康状態を把握し、異常があれば看護師に相談 している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者 や家族と早期退院にむけて調整している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 今までは対象となる利用者はいなかったが、ニーズが あれば対応できる。</p> <p>(外部評価) 事業所では利用者の生活の質を重視しているため、重 介護の場合や医療的ケアが必要な場合等は、同法人の 施設に限らず、もっと設備やスタッフが揃っている場 所を勧めることを基本としている。しかし、家族や利 用者の強い希望がある時は、福祉職スタッフで可能範 囲での対応を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習や緊急時の対応を訓練している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力で避難訓練を行っている。 (外部評価) 複合施設で大勢の利用者が生活しているため、避難訓練は定期的にしっかりと行われている。緊急時に対する危機意識や利用者の命を預かっているという使命感を持ち、AEDを用いた救急法の講習会を行う等、災害等の対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会やケース会などで常に「言葉使い」に関しては、注意喚起している。プライバシーに関してもことあるごとに検討している。 (外部評価) 利用者への声かけは、親しみやすさの中にも敬う気持ちが感じられる。職員は特にトイレの誘導には気を付けており、誇りやプライバシーを損ねないよう十分な配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個人の趣味や好みなどを聞きながら、利用者の決定を尊重していくように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりの状況に合わせて柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の更衣時に好みの服を整えたり、外出時はおしゃれを楽しむよう支援している。行きつけの美容院などを利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みのものを献立にいかし、買い物、調理、盛り付け、片付けなど利用者と一緒に行っている。同じ食卓に向かい合いながら、楽しく食事できる雰囲気を作っている。 (外部評価) 朝食と夕食は法人の厨房で作られているが、昼食は職員と利用者が協働しながら作っている。利用者のできることを把握し、慎重な見守りをしながら無理のないよう支援している。食事が楽しみの一つとなるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分摂取量などの記録をとりながら、体調を観察して、一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を記入しパターンを把握し、適切な誘導を行っている。	
			(外部評価) 水分量や運動量をチェックしたり、排泄状況を記録し声かけや誘導を行っている。毎朝のミーティングで管理者と看護師が話し合い、排泄のリズムが整うよう対策を検討している。早めの対応を心掛け、排泄がスムーズに行えるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、状態を把握しながら食事の内容を検討し、水分補給にも気をつけながら、身体を動かすような支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夜間入浴は出来ていないが、なるべく一人ひとりの希望に沿うように入浴支援をしている。	
			(外部評価) 入浴介護が行いやすいように広めの洗い場が確保されており、ユニットによっては2人介護も可能な浴室がある。利用者が重介護になっても入浴を楽しめるよう設備が整えられており、母体法人のきめ細やかな配慮が感じられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動性をあげるようにし、穏やかな就寝にむけて支援している。表情や態度を見ながら休息を促がしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケースごとに整理して職員が分かりやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験などを生かしてもらえるような行事、役割などを作り支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できるだけ外出要求に応えながら、希望する場所によっては家族の支援を呼びかけたりしているが、十分とはいえないかもしれない。	
			(外部評価) 電子ロックやエレベーター操作などがあり、利用者が気軽に外に出ることはできないが、広いベランダや屋上などで外気浴が楽しめる。複合施設の広い多目的ホールが使用できたり、車いす対応車両が活用できるため外出の支援がよく行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じてお金を所持し使っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れしつらえを工夫している。	
			(外部評価) 畳のスペースは、利用者の寛ぎの場であったり、洗濯物を畳む等の作業の場にもなっている。6人掛けの広いダイニングテーブルが2台置かれているが、テーブル間にゆとりがあり、車いすの利用者が移動しやすいよう配慮されている。窓からの景色も良く遠くまで見ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室を利用したり、ソファを使用したりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。	
			(外部評価) 部屋のデザインや大きさ、設備が違い、利用者の家具がそれぞれ配置されているため、個性豊かな部屋になっている。広いベランダに面している部屋では、庭付きのような感じがあり、和める空間となっている。事業所で用意しているベッド等も利用者の使い勝手を検討したうえで配置がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500810
法人名	はぴねす福祉会
事業所名	グループホームおてだま
所在地	愛媛県新居浜市若水町1丁目9-13
自己評価作成日	平成23年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街の中にある為、毎日近隣の店を利用している。ベランダで花や野菜を育て収穫を楽しんでいる。利用者の状態に合わせて、本人のできることを継続できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根差した福祉施設を運営している法人が、いろいろなサービスを利用者が選択できるよう、複合施設の中で運営している事業所である。事業所の玄関から居室まで古民家を思わせる設えで馴染みやすい雰囲気である。また、屋上や広いベランダなどで気軽に外気浴ができ、他施設の利用者と気軽な付き合いができる。複合施設であるため、医療や介護のスタッフが多く在籍しているため利用者は安心して生活ができる。利用者が地域の一員として生活できるよう、近隣の社会資源を積極的に利用し、近所付き合いに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームおてだま

(ユニット名) 竹とんぼ

記入者(管理者)
氏名 田坂愛子

評価完了日 平成 23 年 9 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「地域の中に」を理念に掲げ、ことあるごとに(カンファレンス、GH内研修など)理念を意識した話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 地域密着型サービスに移行した際に見直しを行い「地域との繋がりを大切に」を理念として掲げている。複合施設内の事業所であるため、地域との距離ができてしまわないよう、理念を実践するために積極的に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、外部から入りにくいということがあるが、毎日近隣の店に買い物に行ったり、美容室を利用したり、地域の運動会、文化祭などに参加している。</p> <p>(外部評価) 事業所が複合施設の4階にあるため、近所の方が気軽に遊びに来れる環境ではない。また、近隣が商業地域のため民家が少なく、ふれあいが難しい地域であるが、職員は利用者と共にできる限り近隣のスーパーや喫茶店を利用し、催し物やイベントにも出かけ顔見知りを増やす努力をしている。</p>	今後も地域に出かけて顔なじみを作る努力を続け、利用者の生活が豊かになるよう取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症について自治会で話をしたり、キャラバンメイトに参加し地域にでかけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議の都度意見交換、話し合いを行ない、サービス向上に生かしている。	
			(外部評価) 商業地域のため地域住民が少ないこともあり、外部からの参加者があまりいないのが現状である。管理者も問題として考えており、機会があるごとに地域に出向き参加を募っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 疑問点、問題点などがあれば、市の担当者話し合い対応を協議している。	
			(外部評価) 母体法人が地域の多くの福祉施設を運営しているため、行政側からは事業所も地域の社会資源として位置付けられている。そのため、事業所だけでなく他のサービス機関も含め、市担当者との協働関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、電子ロックあり、施錠解除については検討を重ねている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアは、母体法人の基本理念にもなっており、事業所内研修だけでなく、法人での研修も行われている。複合施設の設備上、玄関は電子ロックが設置されている。管理者は見守りを基本としたケアを目標にしているため、電子ロックの取り外しが検討課題となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、学習会をするなどして、虐待の防止に努めている。「言葉かけ」においても精神的虐待になっていないか注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 該当する利用者がいたが、まだ十分に活用できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行ない、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから意見や要望を考察し、家族にも自由に意見を求めている。それをカンファレンスなどに反映させている。 (外部評価) 管理者は、面会の少ない家族からの意見の聞き取りを特に意識して行っている。利用者の現状を伝える手紙や定期的な電話連絡、催し物の参加の呼びかけをする等、事業所全体で家族との良好な関係を構築するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ意見提言を聞いている。なるべく反映できるようにしているが、十分とは言えない。 (外部評価) 月2回のケア会議と月1回のユニット長会議で、職員の意見を集約している。また、管理者や各ユニット長も日々のケアに携わっているため、日常業務の中でも職員と話し合いが行われている。職員が意見や提案を出しやすいよう、管理者は良好な職場環境を構築するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めているように思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に外部の研修や内部研修を受けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に参加している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時には少しでも本人の不安を取り除くようにし、本人の状態把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時や面会時に、家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ともに生活をする人」として、得意な事を教えてもらったり、ともに楽しみ、支えあう関係づくりをこころがけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が疎遠な場合、できるだけかわりをお願いしたり、本人の情報を賓回に伝えたり、ともに支援していくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や商店を利用したり、家族の訪問が出来るように支援している。 (外部評価) 事業所の利用者の知人や友人が複合施設のデイサービスの利用者におり、訪ねてよく遊びに来てくれる等、複合施設ならではの交流が行われている。知人や友人が行き来しやすいよう職員は配慮し、関係継続のための支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係に常に注意を払い、「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所して以降も家族も相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを中心に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。	
			(外部評価) 利用者を見つめ直そうと、センター方式の様式を活用し、利用者全員の生活歴をまとめ直している。利用者の新たな一面を発見する等、利用者の理解を深めより一層、利用者本位のケアが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの聞き取り等から把握している。生活アセスメントシートに記入していただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) 介護計画は、月2回のケア会議で利用者それぞれの担当職員がモニタリングを元に評価し、全員で見直しを行っている。また、介護計画は、実践できる具体的な内容にまとめられており、利用者が無理なく楽しい生活ができるように立てられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の希望により、受診介助や買い物、など柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 盆踊りや地域の文化祭などに参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行し ている。</p> <p>(外部評価) 利用者それぞれのかかりつけ医への受診を基本として いるが、近くに総合病院があり、良好な協力関係を築 くことができている。緊急の場合を想定しての支援体 制を整え利用者が安心して生活できるよう取り組まれ ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 毎日の健康状態を把握し、異常があれば看護師に相談 している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者 や家族と早期退院にむけて調整している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族との協議を重ね現在までに1名の利用者の看取り を行なった。</p> <p>(外部評価) 事業所では利用者の生活の質を重視しているため、重 介護の場合や医療的ケアが必要な場合等は、同法人の 施設に限らず、もっと設備やスタッフが揃っている場 所を勧めることを基本としている。しかし、家族や利 用者の強い希望がある時は、福祉職スタッフで可能範 囲での対応を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習や緊急時の対応を訓練している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力で避難訓練を行っている。 (外部評価) 複合施設で大勢の利用者が生活しているため、避難訓練は定期的にしっかりと行われている。緊急時に対する危機意識や利用者の命を預かっているという使命感を持ち、AEDを用いた救急法の講習会を行う等、災害等の対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会やケース会などで常に「言葉使い」に関しては、注意喚起している。プライバシーに関してもことあるごとに検討している。 (外部評価) 利用者への声かけは、親しみやすさの中にも敬う気持ちが感じられる。職員は特にトイレの誘導には気を付けており、誇りやプライバシーを損ねないよう十分な配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個人の趣味や好みなどを聞きながら、利用者の決定を尊重していくように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりの状況に合わせて柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の更衣時に好みの服を整えたり、外出時はおしゃれを楽しむよう支援している。行きつけの美容院などを利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みものを献立にいかし、買い物、調理、盛り付け、片付けなど利用者と一緒に行っている。同じ食卓に向かい合いながら、楽しく食事できる雰囲気を作っている。	
			(外部評価) 朝食と夕食は法人の厨房で作られているが、昼食は職員と利用者が協働しながら作っている。利用者ができることを把握し、慎重な見守りをしながら無理のないよう支援している。食事が楽しみの一つとなるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分摂取量などの記録をとりながら、体調を観察して、一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を記入しパターンを把握し、適切な誘導を行っている。	
			(外部評価) 水分量や運動量をチェックしたり、排泄状況を記録し声かけや誘導を行っている。毎朝のミーティングで管理者と看護師が話し合い、排泄のリズムが整うよう対策を検討している。早めの対応を心掛け、排泄がスムーズに行えるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、状態を把握しながら食事の内容を検討し、水分補給にも気をつけながら、身体を動かすような支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) なるべく一人ひとりの希望に沿うように入浴支援をしている。	
			(外部評価) 入浴介護が行いやすいように広めの洗い場が確保されており、ユニットによっては2人介護も可能な浴室がある。利用者が重介護になっても入浴を楽しめるよう設備が整えられており、母体法人のきめ細やかな配慮が感じられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動性をあげるようにし、穏やかな就寝にむけて支援している。表情や態度を見ながら休息を促がしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケースごとに整理して職員が分かりやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりにあった掃除、調理、洗濯たたみや散歩、歌への参加などの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できるだけ外出要求に応えながら、希望する場所によっては家族の支援を呼びかけたりしているが、十分とはいえないかもしれない。	
			(外部評価) 電子ロックやエレベーター操作などがあり、利用者が気軽に外に出ることはできないが、広いベランダや屋上などで外気浴が楽しめる。複合施設の広い多目的ホールが使用できたり、車いす対応車両が活用できるため外出の支援がよく行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在お金を所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れしつらえを工夫している。	
			(外部評価) 畳のスペースは、利用者の寛ぎの場であったり、洗濯物を畳む等の作業の場にもなっている。6人掛けの広いダイニングテーブルが2台置かれているが、テーブル間にゆとりがあり、車いすの利用者が移動しやすいよう配慮されている。窓からの景色も良く遠くまで見ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室を利用したり、ソファを使用したりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。	
			(外部評価) 部屋のデザインや大きさ、設備が違い、利用者の家具がそれぞれ配置されているため、個性豊かな部屋になっている。広いベランダに面している部屋では、庭付きのような感じがあり、和める空間となっている。事業所で用意しているベッド等も利用者の使い勝手を検討したうえで配置がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている。	